

## [訂正]寛文 10 年(1670)四万石の地震の再考

東京大学名誉教授 宇佐美龍夫  
東京電力(株) 植竹富一  
(有)渡辺探査技術研究所 渡辺 健  
東電設計(株) 中村亮一

Correction to 'Reconsideration of the AD1670 "Shimangoku" earthquake'

Tatsuo USAMI

Nara Nissei Eden-no-Sono, 1-8-1, Takatsukadai, Kawai-cho, Nara -Pref., 636-0071 Japan

Tomiichi UETAKE

Tokyo Electric Power Company, 4-1, Egasaki-Cho, Tsurumi-ku, Yokohama, 230-8510 Japan

Takeshi WATANABE

Watanabe Exploration & Consulting Co., Ltd,

M209, Silk Center, 1, Yamashita-cho, Naka-Ku, Yokohama, 230-0023 Japan

Ryoichi NAKAMURA

Tokyo Electric Power Services Co., Ltd., 3-3-3, Higashi-Ueno, Taito-ku, Tokyo, 110-0015 Japan

We checked the historical documents of Aizu local government and we concluded that the description of earthquake damage of the 1670 Shimangoku Earthquake in "Nagura Nobumitsu Nikki (diary)" was not about Edo but about Aizu.

本誌 25 号 81-90 頁に掲載された「寛文 10 年(1670)四万石の地震の再考」は下表のように訂正する。

本誌 25 号の頁・行	誤	訂正
82 頁 左側最下行	江戸	会津
〃 右側 3 行及び 5 行	江戸	会津
〃 右側下から 3 行	江戸	会津
〃 〃	東京	会津
〃 右側下から 2 行	3.5	2.9
〃 右側最下行	考えられる	ありうるか
87 頁 図 1(a)	[名倉信光日記] <sub>江戸</sub>	[名倉信光日記] <sub>会津</sub>
87 頁 表 3 最下段	(堀越)-18 合計-189	堀越 18 合計 789

尚, 査読者の指摘や, 石橋氏の第 27 回研究発表会での講演[石橋(2011), 本号 p.102 参照]で言及されたように, この地震時の「名倉信光日記」は会津で記載されていた. 以下に後日のために我々が会津藩の正史を調査した結果を添付しておく.

本誌 25 号 p.87 の「名倉信光日記」に「筑前様も三の丸へ御出・・・」と記してある。筑前様は寛文 9 年 4 月 27 日に会津藩主となった保科正経(通称大之助, 戒名鳳翔院)のことである。そこで会津藩の正史「家世実記卷之三十五」を見ると,

「鳳翔院様之三  
寛文十年從  
正月同至六月

寛文十年庚戌正月 御在邑・・・」

と記してあって、地震のあった年の正月には会津にいた事がわかる。又四月には

「四月四日 中将様(徳川綱誠のちの名古屋城主)  
御願之通会津へ之御暇被為蒙仰  
四月十八日 中将様会津御下着 御道中今市駅  
江 御老中様より宿継御奉書を以御安否御尋  
四月十九日 中将様御着城之為御礼 従兩殿様  
(保科正之[正経の父, 先代の藩主], 保科正  
経)御使者江戸江 被差登  
四月廿七日 於御城 中将様を御請待御饗  
応・・・」

とあり、筑前守が会津に居たことが分る。ついで地震のあった五月五日までに、筑前守が会津からどこかに出られたという記事もないし、地震記事も見当たらない。又六月廿一日には殿様(筑前守)が天神口堀の普請場に二度も御出被遊御覧 との記事もあり、地震の当日筑前守が会津に居たと考えられる。従って「新収日本地震史料補遺(東京大学地震研究所,1989) p.211」(「前報告」p.87)の名倉信光日記の下につけられている「<sub>江</sub>江戸」は「<sub>会津</sub>会津」と改むべきである。